

除草ヤギ活用広がる 騒音なく斜面も得意、横浜の企業がシステム特許

2014.08.17 神奈川新聞（記事抜粋）

雑草を食べる「除草ヤギ」の活用が、大学や団地などで広がっている。草刈り機から発生する二酸化炭素（CO₂）や騒音、廃棄物がなくなり、環境に配慮できるのが強みだ。住民の交流といった除草にとどまらない効果も生み出している。



学生に交じって3頭のヤギがキャンパスを歩き、草を食べている。「かわいい」と声が上がるが、実は任務遂行中である。

明治学院大学横浜キャンパス（横浜市戸塚区）では今春から、「除草ヤギ」が活躍している。同キャンパスは約20万平方メートルのうち5割が緑地。3頭は場所を転々としながら除草任務を続けている。

費用は機械を使った除草とあまり変わらない。フンはほとんど臭いがなくすぐ土に返るため、路面にはみ出た場合だけ掃除する。

ヤギを派遣しているのは、斜面地の緑化工法などを扱うアルファグリーン（同市中区）。緑化だけでなく、人の手による草刈りが難しい急斜面の除草について、羊や牛など動物の活用を試行錯誤してきた。結果、斜面歩行が得意なヤギに行き着いた。

ヤギは外来種の雑草「セイタカアワダチソウ」などを1日5～6キロ食べる。同社は現場の植生や地形などから除草にかかる日数を算定するシステムを独自開発し、2012年に特許を取得。同社の技術を使ってヤギが活躍する現場は、東北から九州まで約50カ所に上るといふ。

代表取締役の池崎真さんは「環境に優しいシステムなので、CSR（企業の社会的責任）の宣伝にも役立っていると好評です」と話す。

「除草ヤギ」は、学生や地域住民の交流にも一役買っている。明学大の3頭はたちまち学生や教職員の人気者となり、5月の学園祭で開かれた「ヤギとのふれあい会」には5時間で約300人の地域住民らが訪れ、にぎわった。

学生有志による世話ボランティアも発足し、10人が体調チェックや路面の清掃などを交代で行っている。「ヤギは人間に懐かないと思っていたけど、今では呼んだら来てくれるようになった」と文学部1年の古屋ひかりさん（18）。同大横浜管理部の望月幸光部長は「今後も地域の子どもの環境学習の題材になるなど多方面で活躍してほしい」と期待を寄せる。

UR都市機構（同市中区）は昨年、団地への導入を始めた。第1号となった町田山崎団地（東京都町田市）では、ヤギの様子を見渡せる歩道橋の上に住民が集まり、「かわいらしいね」などと言葉を交わすようになった。高齢者の中には「腰が重くて家にこもって過ごす日が多かったけど、ヤギを見るのが楽しみで、最近はよく外出する」と話す人もいたという。

除草作業がない冬場の前には「ヤギが帰ってしまうのが寂しいです。もっといて」と橋に手紙が張り付けられていたほど。反響に応え、今春再びヤギを派遣すると、子どもらによる歓迎会が開かれた。

同機構は今年、派遣を計3団地に拡大。担当者は「住民も好意的。今後どう広めていくか考えている」と話している。

【神奈川新聞】



注目タグ
ベ이스ターズ
高校野球
おかみさんレシピ
秋の旬感スイーツ
カナロコの便利な使い方

ペット・動物

除草ヤギ活用広がる 騒音なく斜面も得意、横浜の企業がシステム特許

2014.08.17 03:00:00

ツイート



© The Kanagawa Shimburn 無断転載及び複製等の行為は固くお断りします。

「除草ヤギ」とふれあう学生たち = 明治学院大学横浜キャンパス

雑草を食べる「除草ヤギ」の活用が、大学や団地などで広がっている。草刈り機から発生する騒音や騒音、廃棄物がなくなり、環境に配慮できるのが強みだ。住民の交流といった除草にも出している。

学生に交じって3頭のヤギがキャンパスを歩き、草を食べている。「かわいい」と声が上中である。

明治学院大学横浜キャンパス（横浜市戸塚区）では今春から、「除草ヤギ」が活躍している。20万平方メートルのうち5割が緑地。3頭は場所を転々としながら除草任務を続けている。費用は機械を使った除草とあまり変わらない。フンはほとんど臭いがなくすぐ土に返る場合だけ掃除する。

ヤギを派遣しているのは、斜面地の緑化工法などを扱うアルファグリーン（同市中区）。手による草刈りが難しい急斜面の除草について、羊や牛など動物の活用を試行錯誤してきた意なヤギに行き着いた。

ヤギは外来種の雑草「セイタカアワダチソウ」などを1日5～6キロ食べる。同社は現場除草にかかる日数を算定するシステムを独自開発し、2012年に特許を取得。同社の技術現場は、東北から九州まで約50カ所に上るといふ。

代表取締役の池崎真さんは「環境に優しいシステムなので、CSR（企業の社会的責任）と好評です」と話す。

「除草ヤギ」は、学生や地域住民の交流にも一役買っている。明学大の3頭はたちまち寺なり、5月の学園祭で開かれた「ヤギとのふれあい会」には5時間で約300人の地域住民がた。

学生有志による世話ボランティアも発足し、10人が体調チェックや路面の清掃などをた。ヤギは人間に懐かないと思っていたけど、今では呼んだら来てくれるようになった」と文学音（18）。同大横浜管理部の望月幸光部長は「今後も地域の子どもの環境学習の題材になるほしい」と期待を寄せる。

UR都市機構（同市中区）は昨年、団地への導入を始めた。第1号となった町田山崎団地は、ヤギの様子を見渡せる歩道橋の上に住民が集まり、「かわいらしいね」などと言葉をた。高齢者の中には「腰が重くて家にこもって過ごす日が多かったけど、ヤギを見るのが楽しみてる」と話す人もいたという。

除草作業がない冬場の前には「ヤギが帰ってしまうのが寂しいです。もっといて」と橋にいたほど。反響に応え、今春再びヤギを派遣すると、子どもらによる歓迎会が開かれた。

同機構は今年、派遣を計3団地に拡大。担当者は「住民も好意的。今後どう広めていくかいる。

【神奈川新聞】

横浜市
明治学院大学
除草ヤギ

ツイート

やぎによる舌刈管理システム

有限会社アルファグリーン

[概要](#) | [施工方法](#) | [移行について](#)

[資料請求](#)



やぎの舌刈り



芝の茎葉の組織を壊さず再生します

家畜との共生と地球環境保全型緑化維持がメインテーマです。

本システムは道路や堤防などの管理用地、遊休地に発生する雑草や雑木をやぎの舌で刈り込み、刈り草等を外部へ処理せず餌として供与し、蔓延した侵略的な外来植物種は年3回程度で3年間継続により舌刈り管理により在来ノシバを中心とした野草群落が再生されます。

ゼロエミッションによるシステムを提供します。

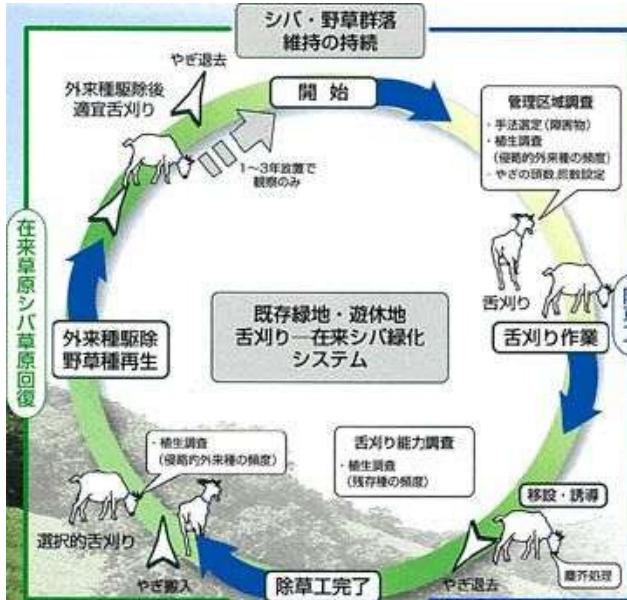
[システムの概要はこちら](#)

[システムの施工方法はこちら](#)

[芝型草地・野草地への移行についてはこちら](#)

システムの概要

■ 除草工・植生維持管理工



■ 除草エフロー



システムの施工方法

① 準備工(管理地の事前調査)

侵入外来種を含めた植生調査を行います。出現植物リスト・植被率・群落高さ等を調査し、除草の所要時間の判定を行います。また、今後の管理回数を判定します。ノシバ等在来シバの頻度分布を調査し、将来の完成されたノシバ群落及び在来野草群落の判定を行います。

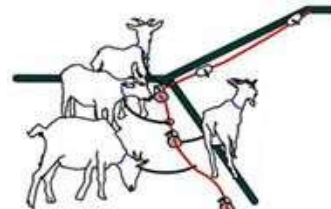
境界を明示し、領域内外の環境を確認し適切な養生を行います。領域内に植栽物・建築物等の施設がある場合は適宜障害とならない対策を行います。

② 舌刈り誘導ライン配置

領域外周を先行し舌刈り誘導ラインを配置します。順次刈込みのラインを移動します。

歩行者・利用者への障害を与えないよう安全対策表示を行います。

休憩小屋を配置します。補助餌として鈹塩を配置します。舌刈り誘導ラインを休憩小屋に配備し、やぎ自身が自由に利用できる管理ヤードと循環型できるようにします。休憩小屋は直ちに撤去できるよう仮設構造物とします。



誘導ライン(地盤固定)

③ 除草工(舌刈り)

3～8頭を小グループとし、その内1頭をオスを配置します。リーダー的役割をします。

舌刈り誘導ラインに首輪ロープを装着し、ロープの長さの調節により障害物の領域へ入り込まないように管理します。

管理内に植栽木がある場合、遮断ネット等を配置し養生します。尚、やぎが食べないサツキ・ツツジ類などは養生が不要となります。

完了後直ちに撤去し、検査を行います。

④ 退去・移動⇒撤去

管理地が点在する場合、専用搬送車により移動します。

必要に応じて塵芥工を行います。

[↑ UP](#)

芝型草地・野草地への移行



自走式刈取機



肩掛刈取機



シバ茎葉の破損



刈取後の外来種成長



自生野草種の同時刈取

機械施工状況では・・・、シバ茎葉の損傷が大！



舌刈状況では・・・



シバ茎葉の損傷が抑止できます！

[↑ UP](#)

お問合せ先

有限会社 アルファグリーン

〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町99番地1-207 山下公園サンライト

TEL.045-650-5360 FAX.045-650-5365

URL.<http://www.a-green.org/>

[資料請求は、画面上の\[資料請求\]ボタンをクリックして下さい。](#)

Since 2001/11/26



最終更新日: 2010/12/08

Copyright(C) 2002- 2014 ISABOU.NET All rights reserved.